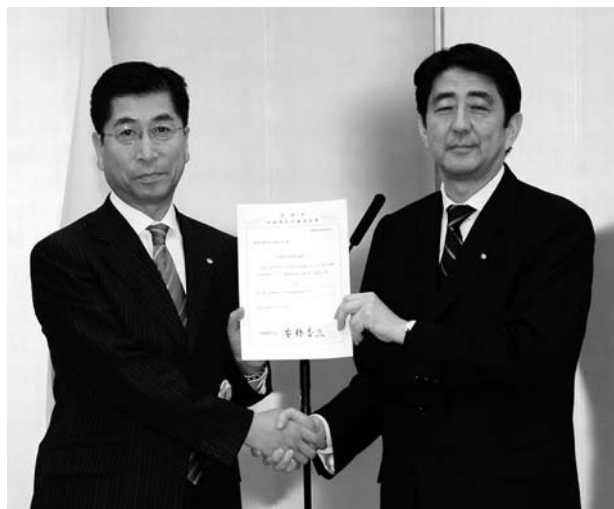


地域再生計画に旧金山中学校を利用した 「企業誘致による地域活性化計画」が認定

地域振興策を国が支援する地域再生法に基づく地域再生計画として、本町で申請していた、旧金山中学校を利用した「企業誘致による地域活性化計画」が認定され、12月4日に内閣総理大臣官邸で行われた「地域再生計画認定書授与式」に池部町長が出席し、安部晋三内閣総理大臣から認定書を受け取りました。



この計画は、廃校となった旧金山中学校の校舎などを活用して、農機具開発に実績のある機械メーカーに無償で貸与し、屋内体育館を農機具の保管庫、製造・整備工場、校舎を歴代農機具の保管庫や管理事務室、屋外運動場をテスト圃場やテストコースとして活用し、雇用の創設と定住者の促進を図るとともに、地域の有志で組織する「金山の未来」の魅力伝える会との連携により、郷土資料保管庫として活用を図り、将来的には農林業体験によるグリーンツーリズムを展開し地域活性化を図るものであり、国は、補助金の返還や起債の繰上げ償還の猶予

について支援するものです。本計画の申請にあたり町では、地域のコミュニティの場として役割を担ってきた金山中学校の閉校に伴い、再利用による地域の活性化は必要不可欠であり、有効かつ適正な活用方法を模索していました。こうした中で、町内で自動車整備工場を営み富良野市において農機具開発製造に取り組みオサダ農機株式会社から、廃校校舎などの利用申し出がありました。オサダ農機株式会社は、先進的な人參・大根収穫機の製造・開発により、収穫作業の大幅な効率化が図られ、本町はもとより全国に向けて販路を拡大しており、平成10年には科学技術庁長官賞、平成17年には北海道産業貢献賞などを受賞され、本町の基幹産業でもある農業の振興に大きく貢献されており、これらに係る事業



△旧金山中学校

計画を精査した結果、企業立地による地域経済の活性化や地域雇用の創造、観光交流の促進につながる有効な活用策と判断し、地域再生計画への認定申請を行ったところです。本計画の認定により、民間活力の導入による本事業の展開は、町が抱える就業・雇用の場の不足からくる若年者の町外流出や地域振興、地域コミュニティという課題に対して、農機具製造分野での雇用増と定住者の拡大、地域交流分野での交流人口の増加により、地域活性化が図られることなどが期待されます。

北海道日本ハムファイターズ 「植樹祭・野球教室」

12月2日、今シーズンのプロ野球で日本一さらにはアジアシリーズも制した北海道日本ハムファイターズの白井一幸ヘッド兼内野守備コーチと田中賢介内野手が来町し、町内から応募した37名の小中学生が参加して「植樹祭」と「野球教室」が行われました。



「植樹祭」は、かなやま湖畔の「アオダモの森」で行われ、白井コーチと田中選手が子ども達とともに、バットの原木となるアオダ



モの苗木を植えたほか、ファイターズの日本一を記念して、高さ4メートルのギンヨウカエデを来賓とともに植樹しました。南富良野高校体育館で行われた「野球教室」では、町内の小中学生のほか、空知川を通じた水産交流を行っている滝川市の少年野球倶楽部も参加しました。現役のプロ野球のコーチや選手を前に少し緊張ぎみの小中学生に対し、白井コーチは、「野球が上手に



なる秘訣は、日頃の練習や試合を楽しくやることです。今日の教室も楽しくやりましょう。」と挨拶し教室がスタートしました。

まず、ウォーミングアップを兼ねて、室内でもできる基礎的なトレーニングの指導を受けながら体を動かした後、守備の練習に入り、田中賢介選手の実演を交えながら、ボールの投げ方や取り方などの基礎的なプレーの指導が行われ、小中学生は熱心に耳を傾けていました。また、白井コーチは、指導者や保護者に対して、「子どもが小さいうちには、短い距離を素手でキャッチすることを繰り返しているうちに、自然にグ



ロープでも捕球できるようになります。」などとアドバイスしていました。

打撃練習では、田中選手がスイングを披露した後、代表して4名の子ども達が直接スイングの指導を受けました。講評の中で白井ヘッドコーチは、「元氣よく積極的に練習することが大事。上手いかわなくてもあきらめないで粘り強く頑張れば絶対に上手くなります。田中選手もそうだったんです。」と話し、子ども達に勇気を与えていました。最後に、「皆の中から、日本ハムの選手がでることを期待しています。」と挨拶し、野球教室は終了しました。

石上久美子さんの20周年を 記念して皆川大輔さんとの ふるさとライブ開催



12月1日、本町出身の歌手石上久美子さんのデビュー20周年を記念して、かなやま湖のイメージソングを手がけた皆川大輔さんとのふるさとライブが、石上久美子ふるさと後援会と町商工会青年部の主催により、保健福祉センターみなくるで行われました。

ふるさとライブには、町内外から約200名が来場。南富良野中学校吹奏楽部の演奏で始まり、千里大学の学生によるコーラスが披露された後、石上久美子さんがステージに登場。デビュー曲などを披露し、「20年目を迎え、今日は新たな出発の日となりました。たくさんの方々に支えら

れて、ここに帰ってきてうれしく思います。」と挨拶されました。その後、後援会の会長でもある池部町長から花束の贈呈とお祝いのご挨拶が述べられ、新曲の「花を一輪」などを披露し、会場内には大きな歓声と拍手が響き渡りました。

皆川大輔さんのライブでは、「ナチュラル」などを熱唱し、石上さんとのジョイントにより、「津軽のじよっぱり」を披露したほか、千里大学の学生も一緒に加わり、「上を向いて歩こう」の合唱も行われました。ライブの後半には、地元のパンド「ミスティク」による演奏で、会場内は大いに盛り上がっていました。

